22









Carpentry
建築大工

木に真剣に向きあって 美しく正確な建造物を建てる

主に木造での建築に従事する職人を指す「建築大工」。木造建築物を建てるには、墨付け、加工、建方、造作取付けなどの技術が必要です。競技では、課題図に示された複雑な形状の木造小屋組の一部を製作し、その技術・技能や出来栄えを競います。現寸図→部材の木削り→墨付け→加工仕上げ→組立ての順で進められる競技は2日間、12時間にわたり、素早く正確な作業であることはもちろん、仕上がりの美しさが求められます。選手たちの木に真剣に向き合う姿勢にも注目です。



＜2025年大会 競技課題＞

競技職種と生活との関わり

日本は、木造建築が盛んな国の一つです。木造建築を建てる上で欠かすことのできない存在、それが現場で働く大工さんたちです。多くが建設会社や工務店に勤務し、様々な木造建築の建築や修理の現場で活躍しています。木造住宅や寺社仏閣の数は一定程度に維持されており、技術に長けた大工さんの必要性は変わりません。後継者不足の深刻化により、若い世代の大工さんは重宝される傾向にあります。

練習で鍛えた自慢の腕と技で ものづくりを極める！

ポイントとなるのは美しさ。競技では決められた時間内に木造小屋組を製作し、その出来栄えを競います。作業はたくさんの工程に分かれ、それぞれに高い精度が求められます。特に部材の木削りでは、断面の寸法の正確性が必要となるため、よく切れるカンナとその調整が必要です。技能はもちろん道具への知識とこだわりがあって、初めて素早く正確な作業ができて美しい建造物が建てられるのです。

近藤 進 主査　株式会社近藤工務店



前回大会金メダリストからメッセージ！

［所属：住友林業建築技術専門校］

稲垣 孝介 さん

みんなで練習することによって、仲間も上手になるし自分も理解が深まるので、協力し合って練習することが大事だと思います！



前回大会金メダリストインタビュー！